サザンカのふていき便
すちゅーでんと版
第33号
令和8年11月1日発行
一般財団法人日本グラウンドワーク協会

大学生からのメッセージ

「自分の『やりたい』を形にする挑戦」

秋田県立大学 生物資源科学部 2年　後藤純
後藤　純

皆さんは「自分が考えたアイデアが、実際の形になって世の中に出ていく瞬間」や「自分が作ったものが誰かに届く感動」を味わったことがありますか？

私は現在、大学に通いながら起業サークルに所属し、日々新しい企画やビジネスの実践に取り組んでいます。今回は、私がこのサークル活動を通じて体験した「手作りのお菓子をイベントで販売した経験」や「先輩たちの屋台を手伝う中で感じた、商品が形になる凄さ」について、少しお話しさせていただければと思います。

元々私は、「何か新しいことに挑戦してみたい」「自分の力で価値を生み出してみたい」という漠然とした思いを持って起業サークルに入部しました。入部当初は、先輩たちが立ち上げた屋台の出店を手伝うことから始まりました。間近で先輩たちの姿を見ていると、どんなコンセプトでメニューを決め、どうやって準備を進め、どのようにお客さんに声をかけていくのか、一つひとつに強いこだわりと熱量が込められていることが伝わってきました。単にお手伝いをするだけでなく、ゼロからお店という形を作り上げ、そこでお客さんが実際に購入する姿をみれたことが私にとって大きな出来事でした。

その経験に大きな刺激を受け、次は自分の手でオリジナルの商品を販売してみたいと思うようになりました。そこで私が挑戦したのが、レシピやパッケージを考案して手作りしたお菓子をマルシェなどで販売することです。

頭の中でアイデアを出すのはとても楽しく、夢が膨らみます。しかし、それを実際の「商品」として完成させ、販売するまでの道のりは決して簡単なものではありませんでした。見た目や味のバランスを整えるための試作の繰り返し、原価計算や衛生面への配慮、手に取ってもらうためのパッケージデザイン作り。机の上の話し合いだけでは見えてこなかった現実的な課題に、何度も頭を悩ませました。一人でキッチンに立ち、徹夜で作業をしていたこともあります。だからこそ、イベント当日、自分の手で完成させたお菓子が売り場に並んだ光景を見たときの感動は、今でも忘れられません。それまでは頭の中のアイデアやメモでしか存在しなかったものが、形を持ち、一つの商品として目の前に存在している。その瞬間、「自分の想いが、本当に目に見える形になったんだ」という強い実感が込み上げ、胸が熱くなりました。さらに、イベントが始まって自分のお菓子を手に取ってくださったお客さんが、「すごく美味しそう！」と笑顔で購入してくださったときの喜びは格別でした。自分が始めからから作ったものが誰かの手に渡り、喜んでもらえる。この体験を通じて、商品を形にすることの面白さと、モノづくりの原点を深く学ぶことができました。

学生という時期は、失敗を恐れずに自分の「やってみたい」に全力で挑戦できる貴重な時間だと感じています。起業サークルでのこうした経験は、私にとって自分の力で未来を切り拓いていくための大きな自信になりました。

このメッセージをお読みの皆さんも、ぜひ自分だけの「ゼロから形にする体験」をぜひ楽しんでみてください！最後までお読みいただき、ありがとうございました。

「石川県立大学マッチング」、「生き物調査」

【サークル情報】石川県立大学「能登学生応援隊」が青年団活動を応援

白山市井口町青年団（石川県）から「大学生サークルと農村マッチング事業」※の依頼があり、学生サークル石川県立大学能登学生応援隊と白山市井口町青年団とのマッチングが行われました。マッチングでは白山市井口町青年団から大学生サークルに対して、地域の高齢化が進み祭りなどの伝統行事や地域行事等が実施できなくなってきており、下記への応援をして欲しいという説明があり、意見交換が行われました。

①運動会設営補助
②虫送り
③盆踊り子供太鼓補助
④秋祭りの神輿担ぎ
⑤餅つき大会の補助
⑥左義長の設営など

今回のマッチングの結果、白山市井口町青年団が希望する活動に対して石川県立大学能登学生応援隊が応援することになりました。



※「大学生サークルと農村マッチング事業」とは、地域おこしのために大学生の応援が欲しい行政、地域おこし団体等と農業農村の応援を目的とした大学生サークルをマッチングする取組み。

[トピック]トキのえさ場において生き物調査・秋を実施

現在、能登地域（石川県）においてトキの訪鳥が取り組まれています。能登町当目地区では、トキの飛来を期待して、休耕田を利用してえさ場を設置しています。このえさ場に、生き物がいるか、協会に生き物調査の依頼がありました。生き物調査は初夏に1回目を行い、今回秋に2回目を行いました。生き物調査は石川県立大学能登学生応援隊の協力により実施しました。

調査の結果、カジカ類、オニヤンマ（幼虫）、カワトンボ類（幼虫）、ゲンジボタル（幼虫）、サワガニ、カワニナ、ハリガネムシ、ヨコエビ類、モンカゲロウ（幼虫）、ヤマトカワゲラ（幼虫）などが休耕田横の水路で確認されました。また、個体は確認できなかったものの、ニンギョウトビケラ類の巣が確認されました。水辺や周辺環境では、アメンボ類、カタツムリ類、ゴイシシジミが確認されたほか、カエルの鳴き声も確認されました。

今回の調査では、魚類、甲殻類、水生昆虫など多様な生物が確認され、水中や水辺を利用する生物が生息できる環境が維持されていることが考えられます。今回の調査では、ゲンジボタルの幼虫やサワガニ、カワニナ、カワゲラ類、カゲロウ類などが確認されたことから、水質、環境ともに良好に保たれている可能性があります。一方、確認状況は季節や水量、流速などの影響を受けるため、今後も継続して調査することで、生物相の変化や水辺環境の状態をより詳しく把握できると考えられます。







行こうよ！水土里の旅！

【熊本県・阿蘇地域（阿蘇の草原）】

燃やすことで守られる、阿蘇の草原



この雄大な景観は、「野焼き」や「放牧・採草」など、千年にわたり人々の手で守られてきました。

阿蘇の草原は「九州の水がめ」と呼ばれ、川や地下水を育み、下流の農業や暮らしを支えています。

1 なぜ、草原を燃やすのか？



火山がつくった大地

阿蘇に広がる黒ボク土は、火山灰から生まれた土。水を蓄え、地中に通しやすいのが特徴。



農業が育んできた草地

阿蘇の草原は、牛の放牧や採草など、長年の農業の営みによって守られてきました。



野焼きで守る草原

春の野焼きで枯れ草を焼き、木が増えるのを防ぎます。放牧・採草と共に草原を守ります。

2 草原は、水を育て農業を支えている



阿蘇の草原が育む水

阿蘇の草原に降った雨は、地中にしみ込み、地下水として蓄えられます。地下水は湧き水となって川を潤し、下流の水田や畑に水を届け、農業や暮らしを支えています。





3 草原を未来につなぐ取組

農家の減少や高齢化で、草原を守ることが難しくなっています。今では、地域の人々に加え、ボランティアや企業なども参加し、阿蘇の草原を未来につなぐ取組が広がっています。





ユネスコ世界文化遺産登録も目指しとるモン！

- ◉阿蘇草原応援企業サポーター
  企業と連携した草原保全活動
- ◉阿蘇グリーンストック
  野焼き支援や草原保全活動の推進
- ◉九州の水を育む阿蘇の守り手基金
  草原保全のための寄付・支援

周辺観光地・グルメ情報



春は野焼きの草原、夏は緑の絨毯、秋は黄金色のススキ、冬は雪による白銀の世界が見られます



草原で育ったあか牛は、適度な霜降りと赤身のうまみが特徴です



冬の黒川温泉は、竹灯籠がともる幻想的な温泉街へと姿を変えます

写真：NTC(一部加工)、一部「写真AC」
イラスト：一部はAIで作成、熊本県、
阿蘇地域世界農業遺産推進協会

【情報提供】NTCコンサルタンツ株式会社

農業土木技術ープロの仕事

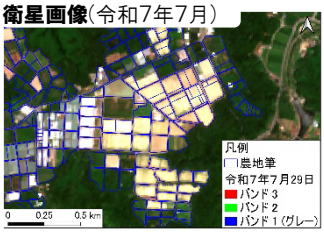
農業土木に関連する企業・団体が日々の業務で取り組んでいる技術情報を紹介する「農業土木技術ープロの仕事」。前号は、「土地利用の判別を“ドローン+AI”で挑戦」でした。
今回は、「衛星画像」で挑戦してみます。***宇宙から、農地の使われ方は見えるのか！？***

1. 人工衛星から見た土地利用と画像解析結果

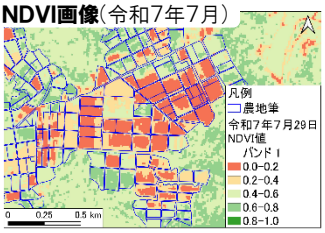
■地球観測衛星Sentinel-2（空間分解能10m）の画像から、土地利用の様子を見ることができます。

■下図は、赤い光と近赤外線の反射から算出したNDVIを、色分けして表した画像です。

衛星画像（令和7年7月）



NDVI画像（令和7年7月）



2. NDVI（正規化植生指数）って何？

植物がよく育つほど、一般にNDVIの値は高くなる

$$NDVI = \frac{近赤外 - 赤}{近赤外 + 赤}$$

■植物は、赤い光を吸収、目に見えない近赤外線を強く反射します。





3. 衛星画像だけで作物を見分けるのは、まだハードルが高かった

■NDVIは、作物の種類や生育時期、雑草などで変わるため、作物を見分けるのは簡単ではありません。

■「では、現地で確認するしかないの？」。でも、多くの時間と労力がかかるし、山間部は熊も出没するし・・・。

同じ農地でも、時期によってNDVIは変化します
（例：果樹園・畑地）



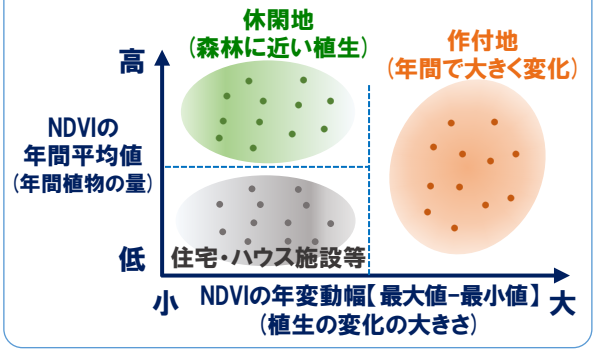
萌芽期（NDVI：低）	生育期（NDVI：高）	収穫後（NDVI：低）	雑草が繁茂（NDVI：高）

※衛星画像は約10m四方の単位で捉えるため、小さな農地の判別には限界があります。

4. 発想を変え、休閑地のみを探してみた

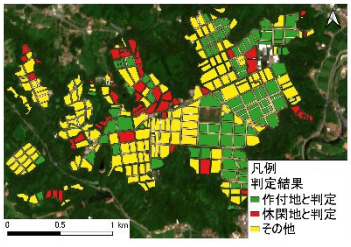
■そこで、「休閑地だけでも」事前に見つけ、現地調査の負担を減らすことを考えました。

- NDVIの変動幅が大きい⇒ **「作付地」**に判別
- NDVIの変動幅が小さく、年間平均値が高い
  ⇒**「森林に近い植生を持つ休閑地」**に判別



5. 現地調査と比べてみた

■山間部の畑地・樹園地を対象に、衛星画像による休閑地の判定結果と現地調査を比較しました。



判定結果の集計（450筆の農地を解析）

衛星画像から休閑地と判定	現地調査の休閑地と一致	解析と現地の一致率
60筆	55筆	91.7%

休閑地と判定した60筆のうち、55筆が現地調査でも休閑地と確認されました。残る5筆は、柿栽培の農地でした。

実際の農地の様子

休閑地の例



一年を通して植物が多くNDVIが高くなりやすい

作付地の例（果樹園：ぶどう）



NDVIの値は季節により大きく変動します

6. 技術者の仕事の面白さ・これからの可能性

■新しい技術だけで、全ての課題が解決するわけではありません。
■現場の課題に合わせて、新技術の活用方法を考えることも、農業土木技術者の仕事です。
■これまでの知識や経験に新しい技術を組み合わせれば、農業土木の仕事の可能性はさらに広がります。

衛星画像・解析画像：NTC、写真：NTC
グラフ・イラスト：NTC、一部はAIで作成

【情報提供】NTCコンサルタンツ株式会社

サークル活動紹介

「北里大学　農援隊　サークル活動紹介」

私たち農援隊は、農家の方々から依頼を受けて農作業のボランティアを行い、学生の農業への関心を高めるとともに、食料自給率120％超えを誇る青森県の農業や、その背景にある歴史・文化を学び、発信している学生団体です。獣医学部のみのキャンパスという特色を生かし、「食」を通して健康を考え、病気の予防や改善につなげていくことを目指して活動しています。

①農家さんでのボランティア

夏にはにんにくやトマト、冬にはごぼうやりんごなど、季節ごとにさまざまな農作物の収穫や出荷準備をお手伝いしています。実際に農作業を体験することで、青森の気候を生かした農業の工夫や、農家さんが作物に込める思いを学んでいます。また、郷土料理づくりや文化祭での郷土料理の販売を通して、農業だけでなく、青森ならではの食文化にも触れています。こうした活動を通じて、学生に青森の農業や食の魅力を伝えています。



②商品開発

地域の農家さんと協力し、北里大学の八雲牛と十和田市の有機野菜を使用したオーガニックハンバーグの開発に取り組んでいます。生産された農産物を「食べる」というところまでつなげることで、農業と食、そして健康の関係について考える機会となっています。獣医学部ならではの視点を生かし、「食の改善を通して健康を実現する」ことを目指した取り組みです。



③青森の農業・文化を学ぶ

りんご資料館を訪れて青森とりんごの歴史を学んだり、棚田を実際に歩いて生物や草地を観察したりするなど、現地での学習も行っています。実際にその場所を訪れることで、資料やインターネットだけでは分からない地域の魅力や、農業と自然とのつながりを体験することができます。そこで得た気づきを日々の活動に生かし、青森の農業や食について考えています。



農業農村を応援する大学生サークル」の活動状況(Instagram)

◘日本グラウンドワーク協会公式公式Instagramにアップしています。
https://www.instagram.com/groundworkassociationjp/

[発行・お問合せ先等]　一般財団法人日本グラウンドワーク協会　中里
Tel:03-6459-0324　　Mail:nakazato@groundwork.or.jp

グラウンドワークとは「協働で地域をよりよくする」という意味です。当協会は、「中間支援団体」として①地域活性化、②環境保全、③福祉、④棚田保全等社会的課題解決を目的に、若者（大学生等）参加及び男女共同参画による協働を主軸にした、いわゆる「日本型グラウンドワーク」を推進しています。